

[016] 雅俗表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/4785218>

出版情報：雅俗. 16, 2017-07-20. 雅俗の会
バージョン：
権利関係：

■同人一覽

(維持同人)

天野 聡一	板坂 耀子	井上 敏幸
大久保順子	大庭 卓也	大牟田拓海
櫻澤 葉子	勝又 基	亀井 森
川平 敏文	菊池 庸介	
ロバートキャンベル		
久保田啓一	白石 良夫	吉良 史明
園田 豊	高杉 志緒	進藤 康子
田中 道雄	中野 三敏	高橋 昌彦
丹羽 謙治	沼尻 利通	西田 耕三
三國 恵里	宮崎 修多	菱岡 憲司
盛田 帝子	安永 美恵	村上 義明
若木 太一	李 静怡	吉田 宰
(賛助同人)		
穴山 健	飯倉 洋一	池澤 一郎
磯部 敦	位田 絵美	入口 敦志
岩井 眞實	大島 明秀	岡田万里子
尾崎 千佳	神永 暁	柏崎 順子
加藤 弓枝	神作 研一	木越 治
清登 典子	工藤いずみ	工藤 俊玄
琴 榮辰	合山林太郎	佐方 章子
塩村 耕	清水 俊隆	神野 雄二
白瀬 浩司	勢田 道生	高山 大毅
田邊菜穂子	中森 康之	中山 成一
西浦 和稔	服部 仁	花田富二夫
浜田 泰彦	伴野 英一	平岡 隆二
平山 聖悟	廣瀬千紗子	藤沢 毅
古相 正美	牧野 宏子	松村 美奈
溝田 直己	三ッ松 誠	宮 徹男
村田 裕司	柳沢 昌紀	矢野 準
山田 洋嗣	米谷 隆史	脇山 真衣

■後記

『雅俗』第十六号をお届けします。今号はいつにもまして豊穣重厚なる号となった。若手からベテランまで、執筆者層も幅広い。まことに嬉しいかぎりである。紙幅の都合ですべては取り上げられないので、本誌初登場の方のものを中心に紹介する。▼論考は六本。榎田北岸の禅趣味が袁中郎の受容であることを論じた山本稿。本居宣長が書いた林崎文庫の碑文解釈をめぐる三ッ松稿。戦前における福岡の古書展覧会の状況を記す山根稿。琉球との文化交流史料の作者について考証した丹羽稿。いずれも力作揃いである。▼次に研究ノートは四本。秋月稿は幕末日田の漢詩人平野五岳が古代の石像を詠じた漢詩を論じた。園田稿は『草双紙年代記』の書名が正確には「繪艸紙年代記」であるべきことを考証する。▼学術エッセイ「学問のいりぐち」は最終回。入口ワールド全開フルスロットル、である。「私の研究履歴」は揖斐高氏。まずは卒論題目に驚かされる。森銃三氏との邂逅がなければ、いまの氏の仕事はなかったかもしれない。そして氏の文学研究の姿勢もうかがえて、興味は尽きない。▼そのほか今号は、九大の学生が取り組んでいる「ジュニアくすし字教室」の実践報告(村上稿)、昨年度文化勲章を受章された中野三敏氏の、祝賀会におけるスピーチ原稿も掲載した。以上、近世文学研究専門雑誌として、自信をもって本誌を世に送り出したい。▼さらに本誌では新たな試みとして、「スポットライト(仮称)」という、若手専門の枠を創設する予定である。これは会員・非会員の別を問わず、三十代前半くらいまでの、活きの良い若手を編集委員会にて推薦し、原稿依頼するものである。その第一号は果たして誰か。お楽しみに。(川平)

雅俗 第十六号

平成二十九年七月二十日 発行

■編集委員会

高橋昌彦 川平敏文 亀井 森
菊池庸介 菱岡憲司

■発行

雅俗の会
(事務局)

〒八二一八五八一
福岡市東区箱崎六一一九一
九州大学文学部 川平研究室内
電話 092-642-2419
e-mail: gazoku2@gmail.com

■印刷所

城島印刷株式会社
〒八二〇一〇〇二二
福岡市中央区白金二一九一六